

## 樹園地の気象

中川行夫\*

### 1. 果樹の栽培分布と気象

わが国の果樹産地の気象を外国と比較すると、生育期間の降水量が著しく多いことに気付く。

栽培の北限は、気象的には主として冬季の低温および夏季の積算温度の不足で決まっているが、南限と気象の関係はまだ明らかでない。冬季の著しい低温は低温害を起こし、夏季の積算温度の不足は果実の品質を不良にする。

### 2. 地形による気象の変化

カンキツは冬季の最低気温が高温な海沿いの斜面に多く栽培されている。谷間地形、平たん地、斜面のすそ部などのように冷気が停滞しやすい地形では冬季に最低気温が低くなるので凍害が起りやすいが、風は弱い。一方、斜面の上部など標高が高くなると冬季の寒くて乾燥

した季節風が卓越するので寒風害が多発するが、凍害は起りにくい。したがって、斜面の中腹が風弱く低温になりにくいので理想的な栽培立地となっている。また、起伏地形では地形によって日照時数や台風被害が著しく異なる特徴を持っている。

### 3. 果樹園の微気象

孤立している樹は周囲の気象環境にまったく左右されるが、数十～数百本とまとまった果樹園になると、園内にはまわりの気象と違った独特の微気象が造られる。この微気象は果樹の仕立て方（たな仕立てか立木仕立てか）や栽植密度によって著しく相違する。一般に園内では、風が弱まり空気湿度が高くなる傾向がある。また樹冠下の地面付近の温度は裸地に比較して日中は低く、夜は高くなりやすい。

このほか、斜面の果樹園は森林と同様に降水阻止作用によって土壌浸食を防ぎ、滲透水の流出を時間的に遅らせる作用がある。

\* 園芸試験場